

うちの学校 紹介します

その5

生穂小学校



生穂小学校の校区は、海に面した浜から山間部の長沢と広く、豊かな自然に恵まれています。地域住民の方々の学校教育に対する理解や関心も高く、子ども会活動や公民館活動等、地域の活性化にも力を入れています。

本校では、「豊かな心で夢を持ち、仲間と伸びる児童の育成」を学校教育目標として子ども同士を響き合わせたいという思いを持ち、取組を進めています。中でも、全校生をたて割り班八つのグループに分け、わんぱく班として組織し、いろいろな活動を積極的に取り入れています。

まず4月に、新メンバーが集まったのわんぱく班顔合わせを行いました。6年生がリーダーになって、ドッジボールやバナナ鬼ごっこ、助

け鬼など、今年初めての遊びを計画しました。

・勇気を出して「集合！」と大きな声で言えた。

・ルール説明など自分なりの言葉で言えるように考えた。

・もつと説明を分かりやすくしたい。

・みんなを笑顔にしたい。

活動を終えた後の6年生の声です。例年と比べ10名という少ない人数の6年生ですが、リーダーとして全校生を引っ張る充実感、意欲が感じられました。

5月には、児童会企画運営の1年生歓迎集会がありました。全校生でジャンケン列車をしたり、わんぱく班対抗のゲームをしたり、各学年から1年生へ手作りプレゼントを渡したりと、楽しい時間を過ごしました。「今までで一番



みんなでつながるじゃんけん列車

楽しかった。」と1年生は喜んでいました。

そして、運動会。例年になく涼しくもり空の下での運動会になりました。子どもたちは三週間の練習期間で積み重ねてきた成果を、いろいろな演技で存分に発揮してくれました。低学年はジャンプの曲に合わせて軽快に踊り、高学年は心を合わせ、南中ソーランを力いっぱい踊りました。運動会でも、わんぱく班に分かれた綱引きや大玉ころがしは、演技にも応援にも力が入りました。真剣さの中にも笑顔があふれる素晴らしい一日になりました。

これからも活動を通じて子どもたちの仲間づくりを進めていきます。

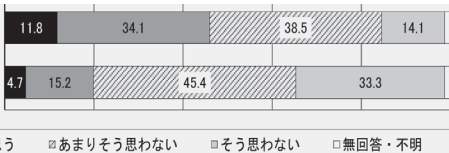


ラストはみんなで決めポーズ

市内成人

私は誇りに思っていることがありません

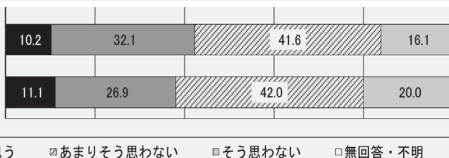
自分は役立たずな人間だときどき思う



市内高校生

私は誇りに思っていることがありません

自分は役立たずな人間だときどき思う



「人権意識調査」から

シリーズ①

テーマ「自尊感情」



【成人・有効回収数1225人・有効回収率40・8%】
【市内全高校3年生305人】
今、人権教育では、自尊感情を育てることを大切にしていきます。自尊感情とは、「わ

たしはわたしであっていい」「わたしはここに存在する価値がある」と、かつてマラソンランナーの有森裕子さんが語った「自分をほめてあげたい」と思える気持ちです。

自尊感情は、肯定的なまなざしや態度で評価してくれる人からの働きかけで育ちます。そして、何かにチャレンジして、確かに成果があった、手ごたえがあった、達成できたという感覚が自尊感情を高めます。

逆に、身近な人から、否定的なメッセージなどの外的圧力がかかると、自分に自信を失います。自分が追いつめられると、他者を攻撃したり、その反対に「自分はだめな人間だから攻撃されてもしかたがない」と無抵抗になってしまうこともあります。

提示してある質問は自尊感情をはかる代表的な質問です。「自分に誇りを持っていない」人は、市民も高校生も45%前後と高く、自分が役立たずだと思っている人は、高校生の約40%近くいて、成人の約20%と比べて、自己を肯定する力が弱いという結果がでてきます。その原因の背景を考え、自尊感情をどう育てていくかが、今後の課題です。